2024 学校評価

「自己評価」

（2025/3/27）

サミットアカデミーエレメンタリースクール長野

Ⅰ　目指す学校像

教育理念「自由と愛」のもと、児童・生徒一人ひとりが、それぞれの個性が尊重され楽しく充実した学校生活を送ることを通して、日本人としての資質とグローバルに活躍できるマインドとスキルを兼ね備え、世界の舞台で自分らしく地球に貢献できる人材となることができる教育環境の整備を積極的に推進する。

Ⅱ　重点目標

1．児童・生徒が主体的に学ぶことができる魅力ある授業を提供できるよう教科指導法の研鑽に努める。

2．英語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を習得することができる環境と方策を用意し実践する。

3．児童・生徒一人ひとりがお互いの個性を認め合い、尊重し合い、高め合える学級や学年をつくる。

4．児童・生徒が心身ともに健康で明るい学校生活を送れるよう、一人ひとりの人権を尊重し、安心・安全な学校づくりを進める。

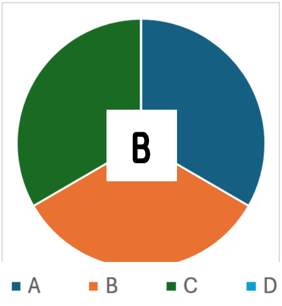
5．教育活動等の情報を、児童・生徒の保護者、地域に対し幅広く発信し、地域社会に貢献できる学校づくりを推進する。

Ⅲ　自己評価

A：９割以上の達成状況である。かなり高いレベルでできている。
B：６割以上９割未満の達成状況である。概ね基準に達している。
C：２割以上６割未満の達成状況である。基準には達していない。
D：２割未満の達成状況である。ほとんどできていない。

1．学習指導や生活指導について

①　児童生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業を行うことができたか。

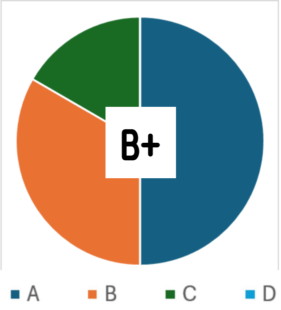


【具体的取組状況と成果】

児童が興味を持てる導入を工夫し、課題を明確にすることで、１年生に応じた能力を全員が習得できるよう、「話す・聞く・読む・書く」を意識した授業を展開した。また、授業研究を通じて学年間やセカンダリーの先生方の助言を生かし、授業の改善を図った。さらに、児童に読書記録をつけさせることで、本を読む機会を増やし、興味のある本を見つけるきっかけを提供した。少人数授業では、理解度に応じた指導を行い、児童やクラスの実態に即した授業を実施した結果、多くの児童が毎回の授業に積極的に取り組む姿勢を見せた。

【課題と改善策】
自分で課題を見つけることができない児童が多い。担任による指導の違いから学習の定着や理解度に差も生まれてきているため、各教員がクラスをまたいで指導していくチーム担任制を進めていく。一人ひとりの個性を尊重し、身につけるべき課題を明確にし、個別指導を充実させ、分かりやすい助言や励ましの言葉を意識して用いながら、丁寧な対応を実践していく。

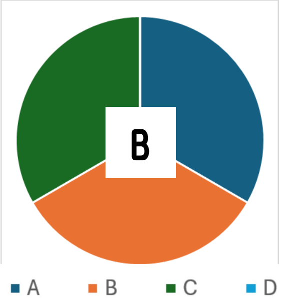
② 問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業が展開できたか。



【具体的取組状況と成果】
STEAM 教育の導入により問題解決能力が向上し、プロジェクト型学習を通してグロースマインドセットを育んでいる。授業中に自分で考えたり、「どうして？ なぜ？」と問いながら意見を発言する児童が増え、対話の機会も多くなっている。国語の授業では表現力を重視し、考えを整理して書く活動やペア・グループでの発表を取り入れたことで、自己肯定感を持つ児童が増えた。また、体育のチーム競技では作戦会議を取り入れ、児童が自らの考えを発信し、他者の意見を聞くことで、より良いアイデアを生み出せるようになった。

【課題と改善策】
教科を横断的に考え、探究的な学びを意識をした授業を行ったが、子どものフィードバックを十分に聞き取れておらず、教師の一方的な授業になってしまうこともある。教材研究や授業研究により授業力が高められるようにしたい。少人数制の授業や対話の多い授業を継続し、児童の苦手な部分はサポートに入る。また、児童が自分の動きを確認し改善するために、iPad を積極的に活用していきたい。

③ 英語４技能の習得のために必要な、英語を聞き、話し、読み、書くことができる機会を十分に用意することができたか。

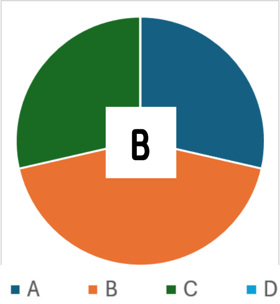


【具体的取組状況と成果】
２学期から英語の授業を習熟度別の４グループに分けたことで、インターナショナルティーチャーと児童がより密接に関わる機会が増えた。一方で、英語力が十分でないために算数の理解が追いつかない児童も見られる。そこで、毎朝の読書と会話を取り入れ、会話が苦手な児童には単語を与えることで発話への挑戦を促した。その結果、日常生活の中で挨拶や天気、曜日などの単語を自然に発する児童が増え、語彙力の向上にもつながっている。

【課題と改善策】
英語による算数の授業の理解が不十分な児童には、放課後算数クラブや個別指導を通じて日本語で支援を行う。また、英語での演劇や創作活動を取り入れ、楽しみながら表現力を高める機会を提供したい。1 年生にとって英語の書く作業はまだ難しいため、ボキャブラリーを増やし、単語を発話する機会をさらに充実させていく。

2. 生徒指導について

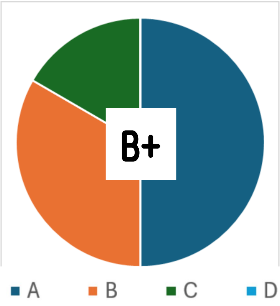
④ 児童生徒がお互いを認め合い尊重し合える関係を築ける生活指導や学級経営を行うことができたか。



【具体的取組状況と成果】
児童の声をしっかり聞くことで、お互いに助け合うように促したり、自分の行動が周りの人にどう影響するのかを考えさせたりして、支え合える人間関係を築いていくことを意識している。相手の気持ちを考え、自分が行おうとした行動がよいことなのかよくなかったのかを考えてから行動できる児童や「〇〇さんはこれが得意だよね」と認めてあげることができる児童が増えている。

【課題と改善策】
一斉指導が多く教師主導型の学級経営になっている場面もあり、改善が必要である。児童同士での話し合いも大切にして、お互いを尊重し合えるようにする。あいさつや言葉遣いなども児童間の関係性に関わってくるため、優しい気持ちで接することができるように声掛けていく。子どもたちの気持ちを汲み取り、子どもの立場になって考えてみることが必要である。また、中には友だちとのトラブルを起こしがちな子や言葉遣いが気になる児童もいる。その都度、迅速な対応を心がけつつ、児童に考えさせ、児童が自ら正しい方向に進める関わり方を意識したい。

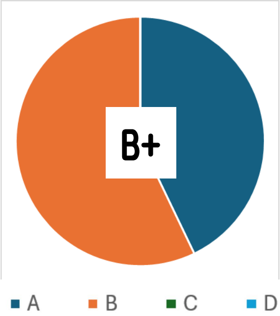
⑤ いじめ・暴力・ＳＮＳトラブルなどのない安心・安全な学校生活を送るための啓発活動を行い、情報収集を行うことができたか。



【具体的取組状況と成果】
児童のトラブルはその日の早いうちに解決ができるよう情報共有を徹底した。トラブルが起きてしまった場合には、ケガがないかの安全確認を最優先し、その後児童への聞き取りや指導を行っている。児童も職員を信頼して相談や報告をしてくれている。また、児童の言葉遣いや会話に耳を傾け、好ましくない場合はみんなが楽しく安全に過ごせるように指導している。

【課題と改善策】
　トラブル発生時は学年間で情報を共有しているが、担任や教頭への報告・連絡・相談がすぐにできなかったこともあるので、今後は徹底する。また、トラブルが起きたときはの対応について、職員間で歩調を合わせて行えるようにする。児童と話す際は、児童の話や気持ちを聞き、児童と一緒になぜトラブルが起きてしまったのかを考えられるようにする。

⑥　体罰や暴言と捉えられたり、児童生徒の人権を軽視したりするような言動を行わなかったか。

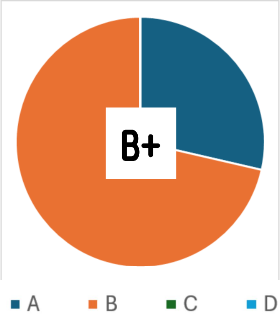


【具体的取組状況と成果】
　体罰や暴言等はない。児童一人ひとりの声に耳を傾けながら接することができた。児童を呼ぶときには「00 さん」で統一している。児童が問題行動や危険な行動をしているときに止めさせたい場合は、理由をしっかり伝え、児童の思いを聞いたりするようにしている。

【課題と改善策】
　児童は教師の言葉遣いや抑揚で厳しい言い方をしていると捉えてしまうことがある。教師の感情をぶつけ、児童を支配したり委縮させたりしないようにするためにも、複数の大人の目で教室と授業を見て、開かれた教室となるように心掛ける。また、一方的な指導ではなく、子どもたちの考えを尊重しながら指導していく。子どもたち名前は、さんをつけて呼ぶことを徹底したい。

3. 保護者連携・地域連携について

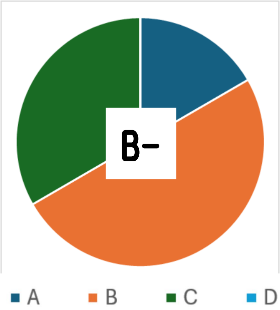
⑦　保護者や外部からの声に対してきちんと対応・回答することができたか。



【具体的取組状況と成果】
　保護者からの相談に対しては、内容に関わらず丁寧に対応をしている。下校の際には積極的に玄関に出て、保護者と話をするように意識し、保護者からの意見等で受け取ったことは職員間で情報共有している。

【課題と改善策】
授業方針や英語のレベル分け等の具体的な事例について、その場で回答できなかったことがあったので、保護者からの疑問が予想されるような場面では、事前に保護者に通知しておくなどの細やかな対策が必要である。また、些細なことでも保護者・外部からの声を職員間で情報共有し、その声に対応できるようにする。

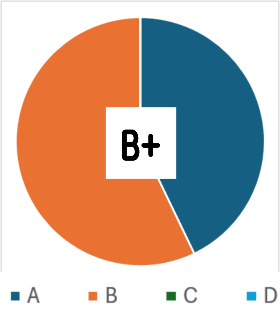
⑧　児童生徒が地域を知り、地域とのつながりを深められる学習機会を用意することができたか。



【具体的取組状況と成果】
生活科の授業で「みわ公園」への季節探しを行い、校外学習で「ながノビ！」へ出かけた。少ない機会ではあったが、子どもたちにとって、とても良い学びになったと感じている。外部の方と触れ合うことで、児童のマナー。あいさつが身につく機会ともなった。

【課題と改善策】
地域の人々との温かい触れ合いや、地域の歴史に興味を持ったためにもセカンダリーの生徒による地域探検の成果を聞く機会を持つことを検討したい。校外学習は、施設の使い方、交通ルール、あいさつなどを学ぶことができる機会でもあるので、児童への事前指導を徹底する。また、言葉遣いや相手を尊敬する気持ちも養えるように学校生活の中でのマナー・礼儀を指導していく。

⑨　学校や学年、学級等の情報を、保護者や地域に積極的に発信することができたか。

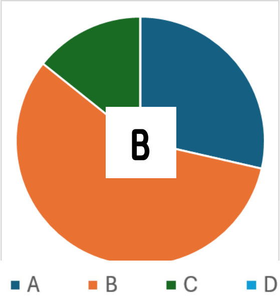


【具体的取組状況と成果】
学校からは学校だよりを毎月発行している。保健室からは、ほけんだよりや健康診断の結果通知など 1 年を通して、児童の健康に関することを発信することができた。学年からは学年通信の発行のほか、Seesaw を使用して日常的に教室の様子を発信している。またこれらに加えて、週予定も毎週送信しており、保護者の方からも、内容がより分かりやすくなったと評価をいただいている。

【課題と改善策】
　低学年なりの情報発信の仕方を考え、家族、親戚、地域へと広げ、相互にコミュニケーションがとれるようにしていきたい。広報活動にも繋げることができるような活動を増やしていきたい。保護者への行事の連絡が直前になってしまったことがあるので、特に家庭で用意してもらうものがある場合は、早めに連絡をする。ほけんだよりを通して、児童の健康に関する情報発信を増やし、健康に関して気になることがあった場合にはその都度、保護者に情報共有．確認を行う。

4. 学校安全について

⑩　災害時の対応、不審者や防犯対策、校内での事故の防止等、安全安心な学校づくりを推進しているか。



【具体的取組状況と成果】
　登下校時や授業時の児童の人数把握、鍵の施錠等は注意深く行っている。校内では、廊下を走ってしまう児童もまだいるが、子どもたち同士で声を掛け合っている場面も見られ、2 年生へ向けて、どういう姿が望ましいか考えられている児童が多い。長野市内で発生した事件への対応は、冷静に行うことができた。保護者には児童の送迎をお願いしたが、混乱なく児童を引き渡すことができた。また、子どもたちにも危機感を持って対応することの重要性を伝えられた。

【課題と改善策】
　不審者・防犯対策として玄関の常時施錠も検討したい。また、不審者・災害・事故発生時の職員の動きを改めて確認し、迅速な対応ができるようにするとともに、児董の精神的なケアをどのように行うかについても検討していく。校内では、休み時間に複数の児童が危険な行動をして同時に対応が必要なときに職員の数が足りないことがあった。職員配置の見直しや危険な状況が起こらない環境を作る必要がある。